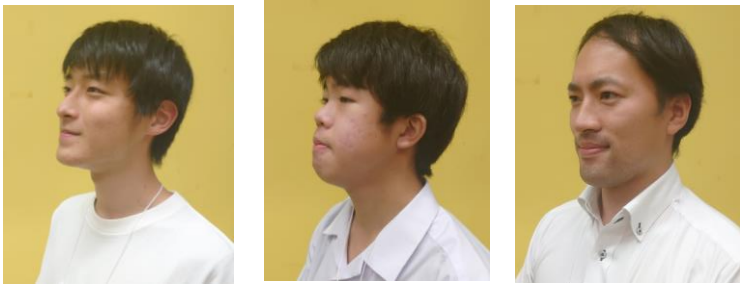


蒲郡若者議会

地域委員会 政策立案シート



近藤 瑛人

近藤 隆樹

児玉 真伍

メンター・協力

丸山 慎太郎、堀井 惇平、今井 香澄、朴 鍾成、菅沼 将帆、三田 吉孝、
吉見 佳剛、石川 祐喜、磯辺 遼、大崎 晃雅、柴田 雅俊、上村 翠

蒲郡の現状

※数値など客観的データ

生産年齢人口(15～65歳)の推移(「年齢別人口表」より)
平成23年・・・50,785人(70.0%)
⇒令和3年・・・43,790人(57.5%)

若者アンケート (令和元年実施)
「将来、蒲郡市で暮らしたい」
⇒中学生：59%、高校生：55%

「蒲郡市の歴史・産業・自然環境など地域のことへの興味がある」
⇒中学生：45%、高校生：31%

1

蒲郡の魅力

※テーマに関連した魅力を列挙

・恵まれた地理的条件や豊かな自然

・農林水産業、工業、商業、観光などの多様な産業

・三谷祭をはじめとした地域文化や常磐館へ多くの文豪が滞在したことなど歴史的文化の充実

・竹島や4つの温泉地などの豊かな観光資源

・豊富な食の名産品

・充実した文化協会の活動

・コンパクトなまち

・活発な協働まちづくり

・優れた個人店や中小企業が多い

2

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	Strength(活かせる強み) ・多くの観光資源(温泉地) ・温泉の近くに観光地 ・豊かな歴史などの文化 ・多様な産業 ・「ない」から生まれる斬新さ	Weakness(克服すべき弱み) ・市民が地域資源を知らない ・若者が活動や表現をする場がない ・芸術のイメージがない ・美術館がない ・アクセスが悪い
外部環境	Opportunity(市場での機会) ・周囲に競合する温泉地がない ・オーシャンビューの温泉 ・大規模イベントによる流入 ・吹奏楽の大会が催される ・芸術への関心の高まり ・温泉や銭湯のブーム	Threat(回避すべき脅威) ・新型コロナによる観光業等の打撃 ・ライブイベントなど大規模イベントの減少 ・財政難等による文化予算の削減

3

理想の未来像

※蒲郡がどんな未来になっていると良い？

蒲郡に関わる人々が魅力を誇り
いつまでも愛されるまち

4



解決すべき課題

※蒲郡市のどんな課題を解決させようとしているか？

- ・ 地域の魅力創出
- ・ 若者の人口減少・流出の抑制
- ・ 関係人口の増加

文化
芸術

蒲郡が好き、
守っていききたいという
若者を増やし
持続的なまちへ

蒲郡をどう変えたい？

- ・ 地域資源のPRをし、市民へ馴染みやすくする
- ・ 地域の歴史、文化学ぶ機会を創る
- ・ 若者の受け皿を創る、活動を補助する
- ・ 文化芸術予算の確保
- ・ 現代アートの企画（展覧会やWS）実施

市民をどう変えたい？

- ・ 若者の地域活動への参加を増やす
- ・ 創造的な活動の活性化
- ・ 若者の文化芸術への関心を高める
- ・ 情報発信力を高める
- ・ よそ者に寛容な雰囲気をつくる

5

強み・弱み

※メンバーの強み・弱み

○強み

高校生…学校規模での周知が出来る
社会人…多様な職業人とのコネクション

○弱み

男性色が強く、女性目線が少ない

6

ターゲット

※政策の対象者を具体的に

若者…

クリエイティブなことが
好きな蒲郡市内外に
居住する10～30代

7



「蒲郡藝住プロジェクト」

～温泉×アートで蒲郡の魅力創造!!～

8

政策の蒲郡に対する目的

- ・ 蒲郡市の魅力の発信
- ・ 文化芸術の振興（芸術体験機会の提供）
- ・ 関係人口の増加

11

政策の参加者に対する目的

- ・ 地域との接点づくり
- ・ 蒲郡市の魅力の再理解
- ・ 人的ネットワークの形成
- ・ 文化的豊かさの提供

12

実施の効果目標

※参加者数、現状→目標の数値変化、アンケート調査など

- ・ 関係人口の増加（アートをきっかけに蒲郡に積極的に関わる人を増やす）
⇒若者による文化芸術サークルの発足、企画の実施
- ・ 蒲郡の地域資源や魅力の再発見、愛着の増進
⇒関係者（担い手、来客など）の心境の変化をアンケートなどで調査

13

政策の概要

取り組み：「アーティスト・イン・レジデンス」

⇒アーティストをある場所に招いて一定期間滞在してもらい、その体験を創作活動に活かしてもらうことにより創作プロセスを支援する制度

キーワード：「藝住」

⇒表現者の生み出す可能性を信じ、彼らと地域の人々と共にそれぞれの身近な日常の中に藝術がある状態をつくりだしていく試み
※鳥取藝住祭2015より抜粋

想定されるプロセス

アーティストの招聘

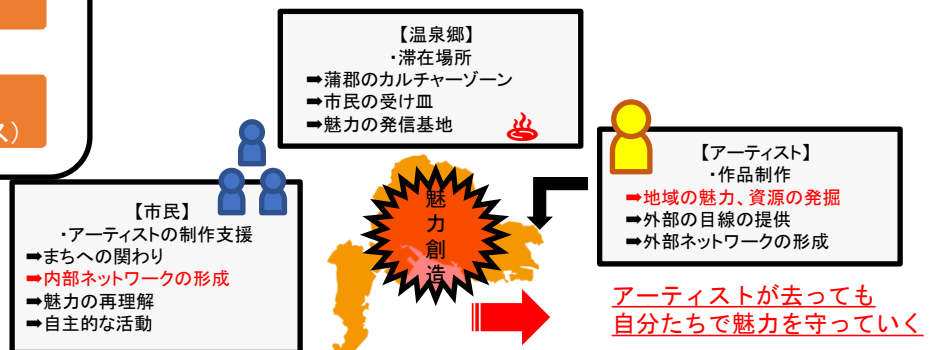
市民説明会
スタッフの募集

滞在制作
(1～3ヶ月)

成果発表
(展示やパフォーマンス)

温泉郷を中心としたアーティスト・イン・レジデンスを実施し、招かれたアーティストが、作品制作を通じて市民と交ざり合い、地域の魅力や資源の発掘や人的ネットワークの形成を目指す。

→日常に藝術がある状態「藝住」を創り出す。



10月の事業実施

事業タイトル：

アートde湯る湯る♨

事業の目的

- ・アート体験の場の提供
- ・若者によるアート活動周知
- ・市民のアート体験の実態について知る
- ・温泉地の身近さについて知る

11

事業の効果・実績

- ・アート体験⇒思い出に（写真撮影等）
- 〈アンケート結果〉
- ・[動機]アクセスしやすいればアートを体験したい人が多い
- ・温泉地・・・行ったことがある人「70%」
- ・[興味]今後アートイベントがあったら「観に行きたい」65%

12

実施内容（目的達成のための手段）

会場に設置されたロープをカラフルな布の端切れで装飾し、アート体験、作品によって会場の風景を変えることを試みた。

参加者には基本的に「指編み」の技術を習得してもらい、感性で好きなように装飾をもらった。（年齢などに応じ臨機応変に対応）
⇒作品に携わることで物理的、心象的に風景が変わることを体験。

蒲郡を笑顔でもてなしファンを増やしている「こはぜの会」様にご協力いただき、蒲郡の地域資源「温泉」をアートによって相乗的に魅力を増していきたいとプレゼンした。

体験後はWEB、紙面によるアンケート（内容は同じ）を実施し、市民のアート体験の現状について把握をした。



政策広報計画

※政策の宣伝方法を記載する

- ・広報がまごおりによるスタッフ募集、イベント告知
- ・市SNSやプロジェクトSNSによる制作状況等のリアルタイム発信
- ・市内の学校、教育施設へのチラシ配布
- ・他市町村文化施設へのチラシ配布

14

政策予算計画

※主要な費用項目を記載する

- ・アーティスト制作費
（滞在費、材料費など）
約50万円（15万円×3ヶ月）
- ・広告宣伝費
（HP、チラシ作成）
- ・イベント制作費
（機材、ボランティア保険など）

15